

統計ニュース

〈報道各紙掲載記事より抜粋〉

《国内・国際》

2/2 現金給与 2年ぶり 0.2%減少

厚生労働省が1日発表した毎月勤労統計調査(速報)によると、2011年に支払われた現金給与総額の月平均は、前年比0.2%減の31万6642円と2年ぶりに減少した。正社員の給与総額は横ばいだったが、景気悪化や東日本大震災に伴う節電などの影響でパートタイマーの労働時間が減り、賃金が減少したことが要因。基本給が0.4%減の24万4056円、残業代が0.8%増の1万8349円、賞与が0.3%増の5万4237円だった。調査は従業員5人以上の事業所に対して実施した。

2/17 介護保険料 40～64歳 4700円(2012年度)

2012年度の40～65歳の介護保険料が、平均で月額4697円と過去最高を更新する見通しとなったことが16日、厚生労働省の推計でわかった。2011年度の4516円に比べ181円の増。高齢化の進行で、介護保険導入時の2000年度の2075円と比べると約2.3倍まで膨らむ。厚労省は今後も保険料の上昇は続くともっており、2013年度には保険料が月額5000円の台にのるとみている。必要なサービスの供給と保険料負担とのバランスをどう取るかが課題となる。

2/18 社会保険料 家計を圧迫

総務省が17日発表した2011年通年の家計調査によると、勤労者世帯1世帯あたりの社会保険料は、月平均で4万6240円となり、実収入に占める割合が初めて1割を超えた。年金や医療などの保険料アップで会社員の負担が増したためだ。とりわけ働き盛りの40～50歳代の負担が重い。家計の購買力を損ない、消費の活力を奪う一因といえそうだ。社会保険料に所得税など税負担も合わせると、実収入に占める割合は17.6%に達した。

2/18 高卒就職内定率 80.4%

今春卒業予定の高校生の就職内定率は、昨年12月末で80.4%になり、前年同期比2.5ポイント増だったことが17日、文部科学省の調査でわかった。男子が84.4%(前年比2.0ポイント増)、女子は74.6%(同3.2ポイント増)。就職希望者約18万5000人に対して内定者は約14万8000人。内定の決まっていないのは約3万6000人(男子約1万7000人、女子約1万9000人)だった。

2/23 男女の賃金格差 最少

厚生労働省が22日発表した賃金構造基本統計調査(全国)によると、2011年のパートを除く一般労働者の平均賃金で、男女間の格差が過去最小となった。医療・福祉分野で活躍する女性の賃金の伸びが後押しし、女性の平均賃金は男性の7割まで上昇した。全体の賃金も前年比0.2%増の29万6800円で2年連続のプラスとなり、2000年代前半からの減少基調がようやく下げ止まってきた。

《県内》

2/18 県内観光客数 微増 2688万人

山口県が17日に発表した2011年県観光客実態調査の速報によると、昨年1年間の県内の観光客数は、2688万1千人で前年より19万3000人(0.7%)増加した。県観光交流課によると、東日本大震災の影響で1～6月の上半期は前年と比べ大幅に減少。しかし、7～12月の下半期は「おいでませ！山口イヤー観光交流キャンペーン」のプレキャンペーンの実施、山口国体、全国障害者スポーツ大会山口の開催効果もあって年間観光客数は前年をわずかながら上回った。県は歴史の道萩往還のウオーキングツアーや古地図を使った町歩きなどのイベントがある「おいでませ！山口イヤー観光交流キャンペーン」の本キャンペーンを3月から8月末まで展開し、年間観光客3千万人構想の目標達成を目指す。

2/22 昨年有効求人倍率 0.73倍

山口労働局は、県内の2011年の有効求人倍率が0.73倍だったと発表した。2010年を0.12ポイント上回り、リーマンショックの影響で過去最悪だった2009年から2年連続で前年を上回った。全国平均(0.65倍)より高く、都道府県別では全国13位だった。平均有効求人数は2万285人(前年比2286人増)、同求職者数は2万7690人(同1647減)だった。山口労働局は「卸・小売業や医療・福祉関係で求人が増えたが、有効求人倍率は1倍を下回っており、依然として厳しい状況」としている。